

3. 摘蕾・摘花

春になり、枝に芽生えた蕾（つぼみ）を取り除きながら数を調整します。

花が咲いた後、樹全体の枝ぶりを見て花を摘む作業を行います。黄金桃は軽くおとす品種になりますが、結実が毎年安定している場合は多めに落としても良いです。

ポイント

実になる前の「摘蕾」と実を付けてからの「予備摘果」「本摘果」、袋掛けに合わせて行う「見直し摘果」などの段階を踏んで適正着果にします。

手間をかけ段階的に減らしていく理由は、病虫害の影響や果実の生育状況、葉や枝の状態を観察しながら収穫する果実の数を調整するためです。

また、急な摘果は核割れの原因にもなるため、徐々に減らしていくことが必要です。

実施上の注意事項

- ① 若木は樹形作りを第一に考え、主枝・亜主枝の先端部の蕾は全部落とします。
- ② 特に主枝・亜主枝の延長枝は、側枝の先端も摘蕾し垂れ下がり防止に努めます。
- ③ 長果枝の基部15cm間の直上芽は、同時に芽かき(芽こき)して徒長枝の発生を未然に防止します。